

第2章 結城市の概況と水道事業の沿革

2.1. 結城市の概況

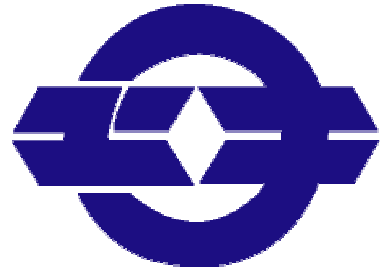
結城市は関東平野のほぼ中央、茨城県西北端の県境に位置し、東は鬼怒川の清流をはさんで筑西市と、南は古河市、八千代町と隣接し、北西は江川（西仁連川）を隔てて工業都市・栃木県小山市に接しており、茨城県の西の玄関口となっています。

本市を取巻く周辺地域は、JR東北本線、東北新幹線、国道4号、新国道4号を南北軸、JR水戸線、国道50号を東西軸として首都圏の外延化の影響を受けながら、東北軸の機能拡大とともに発展しつつあります。特に、隣接する小山市は、東北新幹線の停車駅として急速な都市化、商業化の発展を遂げ、本市もその影響を強く受けております。

市域は、標高20m～45mのゆるやかな結城台地上に広がっており、北部市街地には、中世城下町を偲ばせる豊かな歴史的文化的資産を遺し、市域南部では肥沃な土壌と比較的温暖な気候を生かした米や麦、野菜、畜産を中心とする農業が行われています。

古くから養蚕及び織物の盛んであった本市は、鎌倉時代に結城朝光が城を築いて以来、結城家歴代の城下町として発展し、明治時代の廃藩置県により茨城県に属し、昭和28年に町村合併促進法が施行されると、翌年、結城町、絹川村、上山川村、山川村、江川村の1町4村が合併し、市制を施行しました。

以来、昭和48年には首都圏整備法による都市開発区域の指定を受けるなど、都市としての機能や環境の整備に努め、近年、国道新4号の全線開通や国道50号バイパスの建設促進など広域交通網の整備発展に伴い、新しい住宅開発や産業立地が進められており、東北軸の機能拡大とともに発展する北関東の一翼を担う中核都市として発展しつつあります。



市章



市の木 「桑」



市の花 「ユリ」

2.2. 結城市総合計画

結城市では、平成 13 年に、地域の実情を踏まえた独自性のある施策を展開するという観点から、次代に向けた着実な市の発展と豊かな市民生活の実現を目指し、「第 4 次結城市総合計画」を策定しました。

ここでは、将来構想の基本姿勢として、

1. 「らしさ」づくり
2. 「豊かさ」づくり
3. 「自主・自助」の都市づくり

の 3 点を定め、平成 22 年における結城市の将来像「みどりと歴史のいきいき文化創造都市・結城」を掲げ、その実現に向け、各種施策を展開しております。

結城市の将来像

みどりと歴史のいきいき文化創造都市・結城

1. 「らしさ」づくり

豊かな歴史や自然等を生かすとともに、特色ある都市づくりを市民とともに進めながら、個性と文化を高め、結城らしさを育てていくこと。



2. 「豊かさ」づくり

歴史性や文化性など「らしさ」あふれる風土の中で、生涯いきいきと誇りを持って暮らせる都市を創造すること。



3. 「自主・自助」の都市づくり

「らしさ」「豊かさ」作りの担い手として、市民一人ひとり、さらに地域が一体となって主体的に取り組む都市づくりを基本とすること。



2.3. 水道事業の沿革

結城市水道事業は、昭和 37 年 12 月に計画給水人口 18,000 人、一日最大給水量 3,960m³/日の創設認可を受け、昭和 40 年に給水を開始しました。その後、市勢の発展に伴い水源や施設能力が限界を超えたため、第 1 次（昭和 45 年 2 月）第 2 次（昭和 47 年 3 月）第 3 次拡張事業（昭和 55 年 9 月）を進め、水需要の増加に対応してきました。

昭和 60 年度には、水需要の増加により既存の水源や施設だけでは対応では困難との判断から、県水受水を基本とした安定給水を期すため、第 4 次拡張事業（計画給水人口：61,400 人、計画一日最大給水量：25,000m³/日）に着手、全市給水を目標とした事業を進めています。



図表 2 1. 結城市水道事業の沿革と諸元

事業名	目標年度	計画給水人口(人)	計画一日最大給水量(m ³ /日)	計画1人1日最大給水量(L/人・日)
創設	昭和47年度	18,000	3,960	220
第1次拡張事業	昭和52年度	20,000	4,400	220
第2次拡張事業	昭和56年度	30,000	12,000	400
第3次拡張事業	昭和60年度	40,000	16,000	400
第4次拡張事業	平成7年度	61,400	25,000	407